

記録
16ミリ
カラー／33分

- 自主企画
- 監修
前国立精神衛生研究
所所長 加藤正明
日本精神衛生会常務
理事 春原千秋
- 協力
日本精神衛生会
全国精神衛生協議会

スタッフ

- 製作
福岡順子
- 脚本・演出
田中 徹
- 撮影
植松永吉
- 音楽
長沢勝俊
- 録音
矢野勝久
- 解説
中村 正

文部省選定 1984年教育映画祭優秀作品賞

老年期はすべての人々の行く手にある。老年期を迎えるには、体の健康と経済的準備も大切だが、心の準備をどうするかを忘れてはならない。その人なりの生きがいが必要だということを、実在する男女4人の毎日の生活の工夫の中から考える。



絵にも音楽にも多彩な趣味を持つ福田さん（68歳）は、毎日アトリエに出勤して、自分の才能をいかした孤高の生活を楽しんでいる。30年勤めた学校での生徒たちとのコミュニケーションは今も続けているが、家族とのコミュニケーションはどうなのだろうか。

老人大学の生徒会長、遊園地の管理人、緑の番人、ミニSLの保安要員等、多くの仕事を抱えている田村さん（68歳）は、仕事人間だった生き方がそのまま延長されたような生活で忙しい毎日である。「ほとんど家にいない」という妻の不満と「収入がガタンと落ちた寂しさ」とを、どのように解決したらよいかという課題がある。

謡に指圧やラジオ体操に、毎日忙しい佐藤さん（72歳）。20年前に夫に先立たれ、3年前に遺稿集を出した時から個人として生きる決心をし、老人ホームに入ったが、町の生活がいいともどってきての独り暮らし。謡の教室を開いて弟子たちを持ち、独立して生活する佐藤さんには、近くの息子夫婦の家へ夕食を食べにいくことが心の支えになっているようだ。

83歳で独り暮らしの西島さんは、生来の朗らかな性格で、いつも亡妻の写真とお守りを肌身離さず墓参りも欠かしたことがない。老人アパートの世話役、高齢者事業団のピラ配り、友人の病院見舞いなど、屈託のない毎日を送っている。西島さんも独り自由な生活をしているが、洗濯物を頼める関係にある娘さん夫婦の支えが大きな力となっている。きつぷのいい神田つ子の西島さんは、温かい家族や近隣の繋がりを大切にしている。